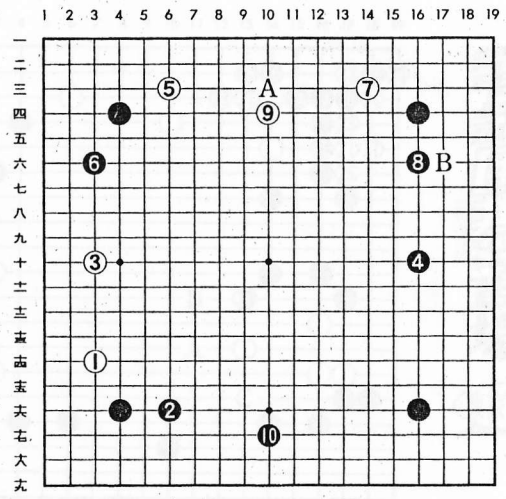


プロ棋戦
電話囲碁道場
(東京二札幌)

日本棋院 趙 治勲 天元
四子 阿部 毅一郎さん
(札幌通産局長、アマ五段)



黒、堂々の立ち上がり



趙 治勲 天元



阿部 毅一郎さん

年一回の札幌と東京を結ぶ電話囲碁も、もうかなり長いことになり、同じ棋士が二年続けて打つというのは初めての事である。本紙主催の天元戦のタイトルホルダーという事で、お許しいただくことにしよう。

四子置いたのは札幌通産局長の阿部毅一郎さん。いろんな棋士と対戦したことがあり、大体三子で好勝負のようだ。かなりの実力者であるが、その人が四子を希望し、四子を置いてこの碁に臨んだのである。内心必勝を期しているのは想像に難くない。必勝を期するのはよいのだが、それがかえ

て自分にはプレッシャーをかけることにならない。そればよいのだが、

「通信手段がどんどん進んでいる世の中で、こういう電話碁というクラシックな碁はぜひ残していただきたいものです。ね。いや、ほんと」と趙天元が冗談とも本音ともつかないいいふりをして、周りを笑わせ、対局が始まった。

白1の力から3とヒラいた時黒4と右辺に三連星を敷く。

白7の力から黒8と一間に受けたのは互先の碁の感覚だが、立派な一手である。

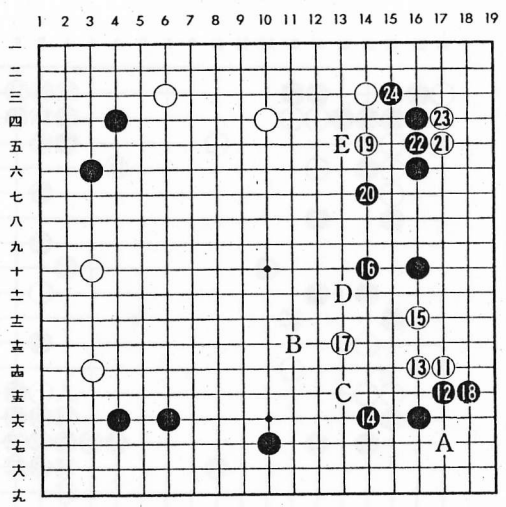
趙天元「黒8では、9とかAと打ち込むべし」と棋書にありますが、黒8と一間に受ける手もあります。むしろ9やAにハサミ白にBと両方力りされるより黒打ちやすいかもしれません。

白9と構えたとき、黒は10と下辺の星下を占める。黒は堂々の立ち上がりで、何のケレン味もない。こういう行儀のよい碁をする人は、おとなしい碁を打つかといえはさにあらず、大抵逆の場合が多い。本当は力自慢で、攻めるのが大好きなタイプ。序盤のうちはきつちり受け、弱い石をつくらぬようにし、攻撃目標を見つけたらガンガン攻めようとしていることが多いのだ。

はたして阿部さんはどういう棋風なのであろうか。(川村 勝也)

プロ棋戦
電話囲碁道場
(東京二札幌)

日本棋院 趙 治勲 天元
四子 阿部 毅一郎さん
(札幌通産局長、アマ五段)



黒、堅実な打ち方

白1と右下隅の石に力かり、戦線が右辺一帯に移ってきた。

参考図1、白1に黒2とハサめば、よくある定石だが白9までが予想される。この後、白はaとかbからcまでが狙いだ。趙天元「善悪な碁だが、急いで打つ必要はない。この白が弱い碁になる、ということだ」

黒12のコスミツケから14も立派な打ち方。

趙天元「初手から黒14まで、まったくいうことありません。黒の打つ手は完ぺきです」。天元のお墨付が出たくらいだ。阿部さんは大変な棋力の持ち主のようだ。

黒18のサガリは堅い手だが、急いで打つ必要はなさすがシヤレ過ぎ。

趙天元「黒24では、すつては来られないのだから、黒BとかCとかDと攻めたかった。あるいは12と白子を取って白は大した戦果とはいえないですね」

（川村 勝也）

(東京⇔札幌)

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

堅実無比を誇つた愚だ

札近 (12)

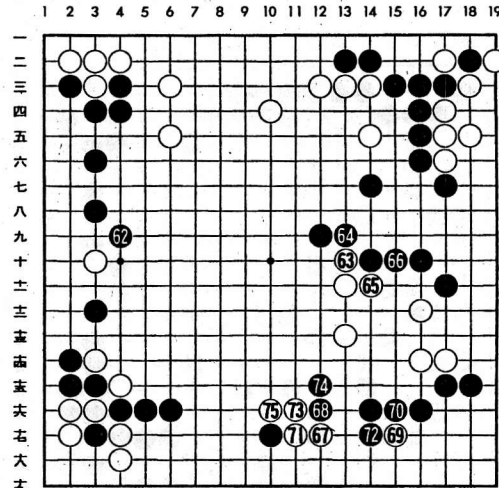
(東京⇔札幌)

一二三四五六七八九十十一十二十三十四十五十六十七十八十九二十二十一二十二二十三二十四二十五二十六二十七二十八二十九三十三十一三十二三十三三十四三十五三十六三十七三十八三十九四十四十一四十二四十三四十四四十五四十六四十七四十八四十九五十五十一五十二五十三五十四五十五五十六五十七五十八五十九六十六十一六十二六十三六十四六十五六十六六十七六十八六十九七十七十一七十二七十三七十四七十五七十六七十七七十八七十九八十八十一八十二八十三八十四八十五八十六八十七八十八八十九九十九十一九十二九十三九十四九十五九十六九十七九十八九十九一百

(川村勝也)

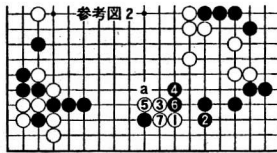
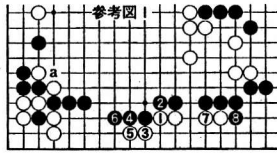
か。

日本棋院 趙 治勲 天元
四子 阿部 毅一郎さん
(札幌通産局長、アマ五段)



強いが故の誤り

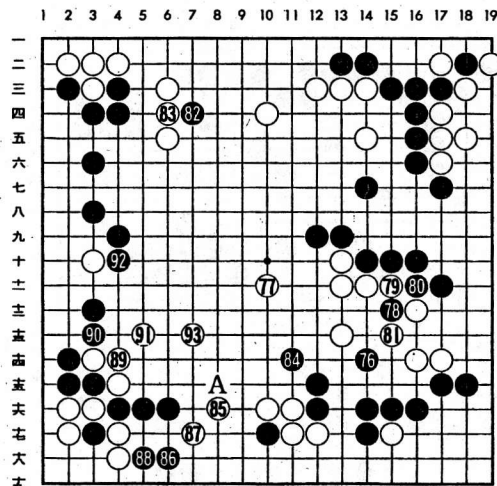
黒62は再掲。
この局面のあたりで、
札幌からスピーカーに
「コービーの出前が…」
と入る。それを聞いて東
京側もコービーが来ている
ことを確認、休憩とな
った。コービーを飲みな
がら、趙天元は「皆さん
から、趙天元は「皆さん
戦績が素晴らしいです
ね。ねっ」といい観戦者
なぐに同意を求める。ど
うやら置かせ過ぎたか、
と反省しているようだ。
白63の出に黒64の押さ
えはふつうの手。趙天元
「黒64で65と打って白の
受けを見る、というのが
プロの気のタイミシ」
と。白63、65と中の石を捕
強し、いよいよ手辺に67
と打ち込む。予想された
手とはいえず、打たれてみ
るべきらしい。



白71のフツカリに黒72
と隅を取り切ったが、趙
天元「黒72は筋のよい手
で、強いが故に誤った。
弱い人なら参考図1、白
1には何も考えずに黒2
と押さえるはずで、以下
ズラズラ黒6までとなり
ます。実践よりもこの図
の方が中が厚く、白aの
動き出しも緩和していま
す。実践の黒72は、参考
図2、白1に黒2と隅を
守ったのとは同じ。こ
うなるくらいなら、黒2
では逆にaと跳んでいる
方が良かったでしょう」
ということだ。
白73と頭を出したとこ
ろで、趙天元「暮は黒悪
くありませんが、白73で
悪い方へ傾きつつありま
す」という。黒が傾けら
なければいけない局面
だ。

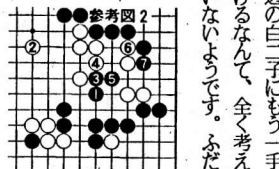
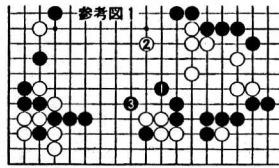
(川村 勝也)

日本棋院 趙 治勲 天元
四子 阿部 毅一郎さん
(札幌通産局長、アマ五段)



黒石飲み込まれる

黒76は白の眼形を奪う
急所だが…
趙天元「黒76も強きゆ
えの奇り道、急所がすぐ
目に入ってしまうから逆
に横道にされてしまうの
です。この手では、参考
図1、すなおに黒1とコ
スんでいたい。白2と封
鎖を避ければ、黒3と方
急所だが…」
黒78は何か錯覚をした
のだから。打つなら、参
考図2、黒3と二本出て
白の受け手を見る。白4
目に入ってしまうから逆
なら黒1からで白の眼
に横道にされてしまうの
形がなくなる。
白85のとき、黒86と下
に行ったのはいただけ
ない。やはり黒89とキッ
安全を図るべきであっ
た。趙天元「阿部さんは
左辺の白1子にもう一手
かけるなんて、全く考え
ていないようです。ふだ
はAとツケて、とりあ
ず下辺の石を助ける算段
をしなくてはいいませ
ん」



(川村 勝也)

プロ棋戦
電話囲碁道場
(東京・札幌)

日本棋院 趙 治勲 天元
四子 阿部 毅一郎さん
(札幌通産局長、アマ五段)

黒、最善のヨセ

白93(再掲)と下辺の黒五子を取り切られては白の方が良くなつてしまつた。互先の相手ならともかく、相手は趙天元、碁は終わりと思うのがふつうであらう。ところが阿部さんはこの辺で非勢を悟つたのではなかったかと思う。この後の黒の打ちふりを見ていただければおわかりいただけると思うが、急にノビノビ打ち出したのだ。勝たなくては、という思いが強く、それが逆に極端(しつこく)となつて今まで着手にノビを欠いていたのだ。非勢となつた今、なりふりかまつていられないと、開き直つたに違いない。

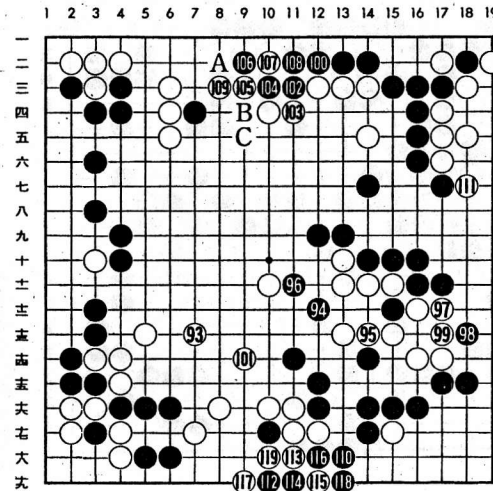
黒94、96と白を分断、白99までの生きを強い、と笑つた。その意は、白

黒側と盤中最大のはいに回。とても大きい所だが、形勢われに利ありと見た白は、101と黒五子の策動を封じ方ソノキを下ろしてしまつた。この手は上辺、下辺等を黒からヨセられても白勝ちとヨミ切つた手。白にこれだけしつかり計算され、堅実な手を打たれては黒たまらない。結果論になるが黒側では101と打つて見るのであったか。

黒側からグイグイはい込む。黒側ハネに白側と二本キリを入れてから白側と伸びる。解説をして石を並べていた趙天元「白側を打ちながら『みっ』ともなかつたかね?」で本譜に入つて黒のヨセはほぼ最善である。(川村勝也)



形勢良好、と最後の仕上げにかかる趙天元



プロ棋戦
電話囲碁道場
(東京・札幌)

日本棋院 趙 治勲 天元
四子 阿部 毅一郎さん
(札幌通産局長、アマ五段)

健闘する阿部さん

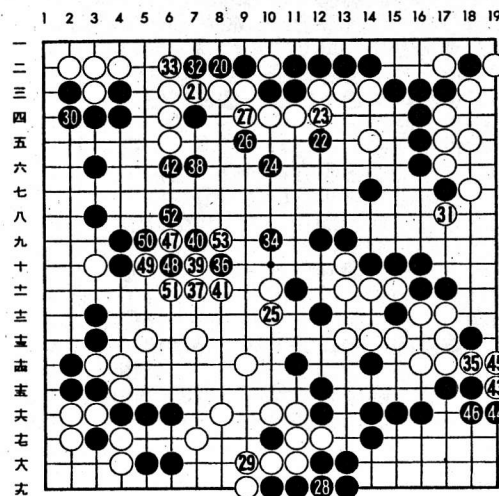
黒20に白21と引き、安全第一の打ち方。一転黒は22を利かし24と中地を囲い、それに対して白25と引いて連絡を完全にしたのが見習うべき打ち方。アマチュアの人なら、高段者でも、囲われてはならじと、34をきつて逃げ、あわてて消しに行くのがふつうであらう。それは黒に下辺との連絡を断たれる可能性があり危険な打ち方なのだ。

黒に26、34、36、38と目いっぱい囲わせる代償を31のハネとか35の出など得られる、と白はヨソでいるのだ。それにしても黒22から38までと中地をつつたのは大戦果である。もっと早くこの

ようにノビノビ打つても、阿部さんは現在札幌の通産局長だが、昔ボーランド勤務をしていたことがある。そのころワルシヤを訪れた人の一文が、ヤヌス・クラチェツク氏で、三年前のアマ世界選手権戦で六位に入り、青い目ではトップと氣をばいたのだ。彼はコンピュータ科学者となつたが、今年もボラン代表として世界戦に出てくる。阿部さんとはるか札幌から名古屋へ声援を送ることだろう。(川村勝也)



最後まで頑張った阿部さんだったが...



(東京⇄札幌)

(川村 勝也)

黒の応接はすばらしい。ところが、黒62が楯根を後に残した。これで89と叩つておけばこの碁は黒の勝利するところとなつたであらう。

碁に勝てての手台にし、自分でフレッシュャーをかけて着手にノビを欠いた、という結果となつた。

(川村 勝也)

黒128ツク(15) 黒154コウトル(148白189同(149白191同(147黒236同(168

(川村 勝也)